

## いじめ・不登校等、子どもが抱える課題の未然防止に向けた道徳教育の充実 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也氏



令和3年度文部科学省問題行動等調査の結果が公表されました。管内の学校では、いじめの芽が小さいうちに積極的に認知し、1つひとつの事案に組織で丁寧に対応していただいております。同時に、自己有用感を高める集団づくり等の新規不登校児童生徒を出さない魅力ある学校づくりにも力をいれていただいていると感じております。一方で、子どもたちが抱える課題が複雑化・多様化してきており、未然防止の取り組みが一層重要になっています。

今年度の第2回置賜地区いじめ・不登校防止連絡協議会では、浅見哲也教科調査官から上記のテーマでご講義いただきました。

\*毎週の道徳の時間が楽しみになるようなヒントをたくさんいただきましたので、その一部を紹介します。

### ◆全教育活動を通じて行う道徳教育 \*道徳科の授業が要



「さあ、今度の運動会では頑張りましょう!」  
→「最後まで諦めずに力を出し切りましょうね!」・・・  
→「友達と協力して、演技を成功させましょう!」・・・  
→「競技では、ルールを守って競い合いましょう!」・・・

目的・ねらいは?

希望と勇気、努力と強い意志

友情、信頼

規則の尊重

### ◆道徳教育は「道徳性」を養うことが目標

児童生徒が道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況で道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を養う。



### ◆道徳科におけるいじめの指導

(例) ①いじめに関する教材を活用して授業を行う

②問題場面で「何が問題だったのか」「自分ならどう考え、どうするか」を問う

③傍観者、いじめる側、いじめられる側のそれぞれの視点に立って考える授業を行う

\*いじめに関する問題を自分自身のこととして、**多面的・多角的**に考える。



### ◆教師の役割・・・「人間担任」 ～一人の人間として子どもと向き合う～

○教師と子どもが、多様な価値観をもつ自立した個人として互いに尊重し合い、教わり合い、育ち合う (×特定の価値観の押しつけ)

○「背中の教育」= **安心感** **モデル** **自由の保障**

○指導は、子どもが自らのよさや成長を実感できるように工夫するもの

評価は、子どもの成長を願って行われるもの

\*道徳科の授業は**未来への投資**、道徳教育は**教育課題への大きな一手**

## <授業の極意> 体験授業を通して教えていただきました!

\* 浅見哲也教科調査官【講義資料】「いじめ・不登校等、子どもが抱える課題の未然防止に向けた道德教育の充実」より

### 道德科における 主体的・対話的で深い学び

「考え、議論する道德」

道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習

- 問題意識をもつ
- 自分との関わりで捉えて考える
- 多面的・多角的に考える
- 自らを振り返る
- 自己の(人間としての)生き方についての考えを深める

学習指導過程の展開の段階で、教材を活用しながら道德的価値を自覚していく。

自分との関わり

多面的・多角的

① 自分の価値観(気持ちや考え)を確かめる。

人間理解

② みんなの価値観を出し合い、比べ合う。

他者理解

③ いろいろな気持ちや考えの中から、よりよいと思うものを見つけ、自分の生き方に生かそうとする。

価値理解

自己の生き方についての考えを深める

### 道德的価値にせまる発問とは

【教材文】「知らない間の出来事」(出典『私たちの道德』小学校5・6年)

<前半> T:なぜ、みかさんは、あのようなメールを流したのだろう?

T:みかさんの友達は何でメールをしたのだろう(もう少し詳しく教えてくれる?)

T:こういう何でも情報が伝わる透明な雰囲気はどう思う?

T:この問題を解決するにはどうすればよいと思う?



**T: それでは、友達と「つながる」ってどういうこと? ※子どもに問題をぶつける**

友情、信頼

の授業を行っているので、子どもたちに「つながる」ということに目を向けさせ、**本当のつながりとは?**と考えさせる

子どもがこれまで育ってきた経験や環境で価値観が形成され、中にはいじめや不登校につながってしまうこともあると感じます。道德教育の役割として、子ども一人ひとりの価値観を理解しつつ、様々なケースの中でよりよい判断ができるような道德性を身に付けさせていくことが大事だと思いますし、友達の価値観も受容できるように、日々の授業や声かけをしていきたいと思ひます。日々の教育活動の中で、子どもたちに考えさせたり、励ましたりしながら、道德性を養っていきたいです。(小学校教諭)

参加者の声



自分の道德授業を振り返ると、価値理解で終わっていることが多いと感じました。そこで終わるのではなく、自分の好き嫌いを明らかにし、時には人間の弱さなども話し合いながら、最終的には自分以外の他者を理解しようとする機会を少しでも多く設けていきたいです。日々の道德の授業が、あたたかい学級、不登校の未然防止につながると信じて、教材研究をしていきたいです。(中学校教諭)



“心を育てる”(考えさせる)ことが、いじめ・不登校の未然防止につながる…とてもシンプルで当たり前のこと、そして一番大切なことを痛感しました。特別の教科「道德」の指導の充実が必要だと思ひました。「人間担任」それがあこがれで就いた仕事でした。先生は素敵な仕事です。元氣と勇氣を出して頑張りたひです。(小学校教諭)



\* 道德教育アーカイブ \* <https://doutoku.mext.go.jp/>

いじめ防止を扱う授業実践や、「考え、議論する道德」の授業づくりの参考となる工夫のポイントを、実際の授業の映像と授業者へのインタビューを通して紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

